
鏡の中から

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡の中から

【Nコード】

N4195H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

泣き虫な私はいつも鏡に向かって愚痴を言っていた。そんなある日……。

私は「泣き虫」とあだ名される涙大量生産の中学生の女子。

また今日も学校で嫌な事があって泣いてしまい、家に帰っていつもの「儀式」をした。

「儀式」と言ってもそんな大それた事ではない。

部屋にある姿見に写る私に愚痴を言うだけだ。

この鏡はおばあちゃんが使っていたもので、お父さんがお母さんと結婚して今の家を建てた時、おばあちゃんから譲ってもらったものだ。

古いものだが、私は小さい頃からこの鏡が好きで、中学生になった時にお母さんにねだって自分の部屋に移してもらったのだ。

私はいつものように鏡の中の私に話しかけた。

「また泣いちゃった。こんな私をどう思う？」

鏡の中の私が答えてくれるわけではない。

それでも私は言いたい事を言うと、姿見にカバーをかけて、部屋を出ようとした。

その時だった。

「もっじゅんざり」

私はその声にびっくりして振り返った。

誰もいない。

「気のせい？」

私はドアノブに手をかけた。

「気のせいじゃないよ。いつもあんたに下らない愚痴を聞かされて、うんざりって言ったのよ」

「！」

私はまさかと思ったが、姿見の前に戻り、カバーを外した。

そこには、ムスツとした顔の「私」がいた。

「えええええ！？」

私はパニックになりかけた。

思わず鏡の裏側を覗いた。

誰もいるわけがない。

「何探してんのよ？ 私はここ。この中」

鏡の中の「私」が言った。私はポカーンと口を開いたままで、「

私」を見た。

「あのさ、あなたの愚痴を毎日聞かされる私の身にもなってよ。ホント、冗談じゃないわよ」

「う、うめん」

私は「私」に謝った。

「それがダメなの。もっと強くなりなさいよ」

「でもさ……」

私は言い訳をしようとした。すると「私」が、

「後ろばかり向いてたら、何かにぶつかって怪我するよ。前を見な
「よ」

「うん……」

私のイジジぶりに「私」は切れたみたいだ。

「あなたは毎日自分の弱さを私に愚痴って来たけど、今日は私が愚痴るわよ」

「はい……」

私は思わず頷いてしまった。

「私はあなたの虚像だけど、あなたの相談役じゃない。あなたは自

由にどこにでも行けるけど、私はこの中であんたが来るまでジッと
してるだけ」

「・・・」

私は泣きそうになったが、何とかこらえた。

「1日だけでいいから、私と交代してくれない？」

私はギクツとした。「私」はニヤリとして、

「もう決めた。交代しよう」

「え？」

鏡の中から「私」の手が伸びて来た。その手が私の右腕を掴んだ。

「さあ！ 交代してよ！」

「！！！！」

私は声もなかった。でも必死に抵抗した。

「交代してよ、1日だけでいいんだから！」

私は遂に声を上げた。

「嫌よ！ 私は交代したくなんかない！」

途端に「私」の手は離れ、鏡の中に戻った。

「それでいい。あなたに必要なのは、自分の気持ちを声に出すこと。泣いているだけじゃ、何も変わらないんだよ」

鏡の中の私は、ニツコリ微笑んで言ってくれた。

「ありがとう・・・」

私は泣いてしまった。また怒られると思って、ハツとして「私」を見た。

「そういう涙はいいんだよ。でも、言い訳のために泣くのはもうおしまいにしようよ」

「うん」

私は涙を拭つてもう一度「私」を見た。

でもそこにいたのは私だった。

行っちゃった？　ありがとう、「私」。

またいつか助けてね。

そう思いながらカバーをかけ、ドアに近づいた。

「助けるのは今日だけ。これからは自分で何とかしな」

「私」の声がした。

「うん。」

強くなれそうな気がする。

私はお母さんが呼ぶ声に答え、部屋を出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4195h/>

鏡の中から

2010年12月19日14時07分発行